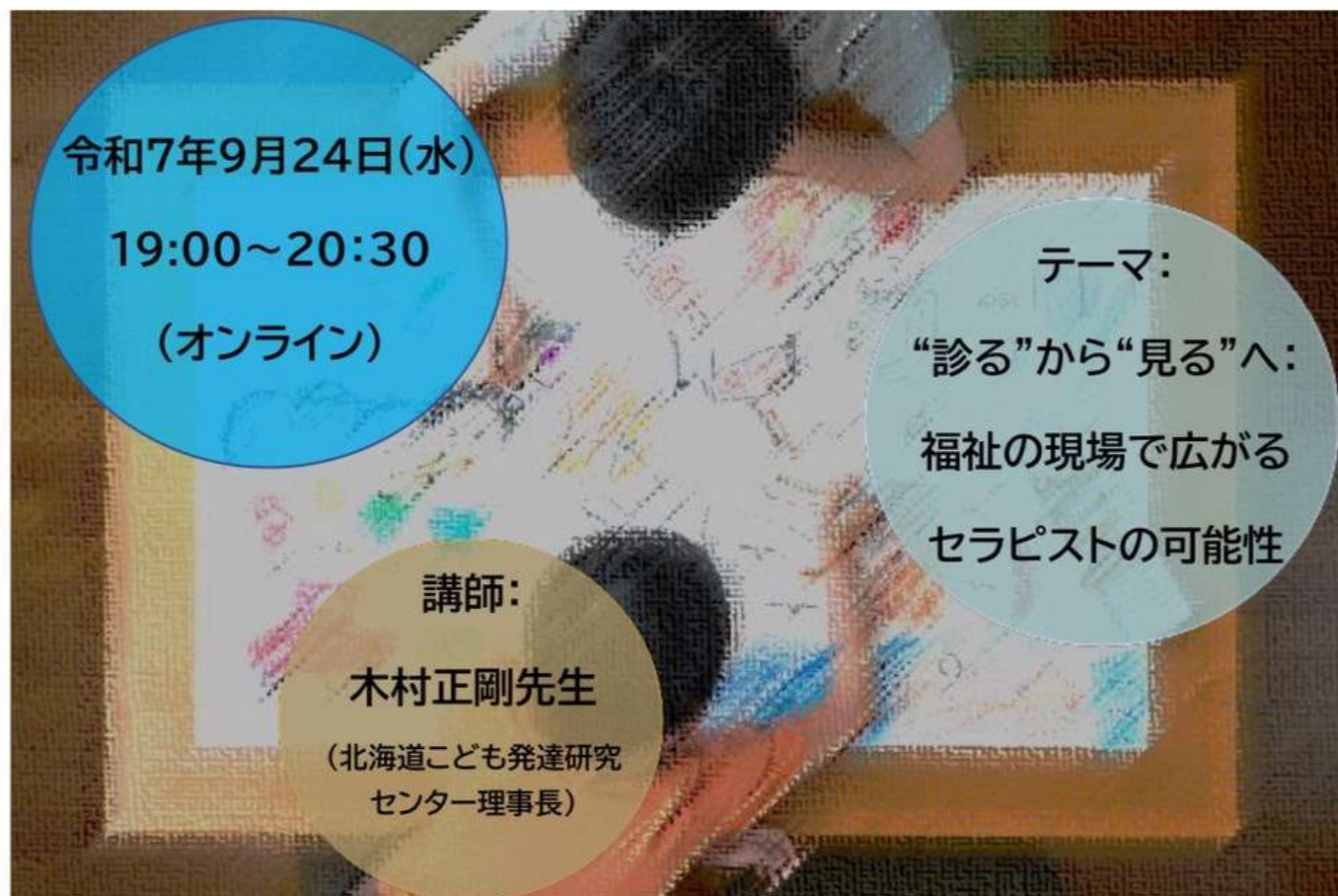


令和7年度こどもサポート委員会 研修会



令和7年9月24日(水)
19:00～20:30
(オンライン)

テーマ:
“診る”から“見る”へ:
福祉の現場で広がる
セラピストの可能性

講師:
木村正剛先生
(北海道こども発達研究
センター理事長)

対象:香川県士会員の PT・OT・ST、またはリハ養成校の学生

(会員外・他職種の方も参加可能ですが参加費が必要です)

参加費:県士会会員・学生は無料(会員外の方は¥1000 他職種は¥500)

申し込み方法: QR コードまたは下記リンクにアクセスし必要事項を記入して下さい。



https://docs.google.com/forms/d/16HQg5rK9kQXAaO2LhK2eY6NqaLW93ziJbogNkUkuFXM/viewform?edit_requested=true

木村先生からのメッセージ

「小児は難しくない」その第一歩を、やさしく実践的に

本研修は、小児領域への心理的ハードルを下げ、セラピストが自然と関わりたくなる視点を共有します。小児の臨床を身近に感じ、興味と手ごたえが同時に育つ時間を目指します。問題解決のための思考は、成人領域と同じです。だからこそ「小児科」という大きなくりではなく、中枢・整形・呼吸器・精神科・耳鼻科といった診療科の視点で捉え、必要な支援が立体的に見えてきます。また、症状や機能に沿って整理することで、評価と介入の道筋が明確になります。PT は運動発達、OT は精神発達、ST は言語発達という視点で見ると、目の前の子ども像がより明確になります。各専門の観点を束ねることで、チーム連携もスムーズになり、介入の優先順位がぶれません。

こどもは想定外の反応を返してくれるからこそ、関わりは楽しく、学びに満ちています。そして、その学びを深める核にあるのが「感情表現」と「共感」です。子どものリハビリは、技術だけでなく、気持ちに寄り添う姿勢が成果を左右します。さらに、小児領域では一人のセラピストが PT・OT・ST の視点を横断して経験できます。幅広い臨床に触れることが、専門性の厚みとキャリアの可能性を大きく広げます。

本研修を通じて、小児リハの魅力と可能性に出会ってください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。